

普及活動情勢報告（令和3年10月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

加工用ワサビ育苗事業の効率化を目指して ～いの町農業公社で加工用ワサビ出芽率向上試験を実施中～



試験中の種子の出芽状況を比較している様子

9月19日から、いの町農業公社で加工用ワサビ出芽率向上試験を行っています。公社はワサビ苗の供給を一手に引き受けていますが、出芽率向上等による作業の効率化が課題となっています。低温管理できる出芽器で管理した種子の出芽率が慣行の2.8倍となり、公社職員に、高温が問題であることが改めて認識され、播種時期の見直し等の課題が見えてきました。

農業改良普及課では試験結果をまとめて、播種適期、播種方法等を提案しながらワサビ育苗事業の効率化を支援していきます。

ショウガの品質向上・安定生産に向けて ～ドローンで生育状況を確認しています～



空撮と生育調査を実施中

10月7、8日、JA高知県土佐市生姜部会と同JA伊野支所まるい生姜部会員15人の19ほ場で、生育状況確認のためドローンによる空撮を実施しました。

部会員からは、「上空から見るとショウガの見え方が違う」「病気の発生場所が確認しやすい」等の声が挙がっていました。

これまでの生育調査結果と併せて空撮したほ場の写真を生産者に提供することで、肥培管理等の改善に繋がることが期待されています。

農業改良普及課は、関係機関と連携しながら、今後もスマート農業を推進し、品質向上・安定生産に向けて支援します。

更なる収量の向上を目指して ～「千鳥マルチ」を活用したニラの生育・収量調査を実施中～



生育調査は毎週行っています

JA高知県土佐市ニラ部会では、1年を通して安定した生産を行うために、植え穴が千鳥状に配置されたマルチの活用に向けて検討を行っています。「千鳥マルチ」の有用性は昨年の調査で確認済みですが、より高い収量を目指し、栽植条件を変えた実証試験と調査を去年に引き続き行っています。生産者からは「資材の特徴を活かせる条件を見つけたい」と調査に意欲的な声が聞かれています。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携してニラの生産安定に向けて支援していきます。

いの町はショウガの産地です、知っていますか？ ～いの町立枝川小学校でショウガの出前授業～



児童からの質問を受けている様子

10月6日、枝川小学校3年生の児童50名を対象に、ショウガの出前授業を開催しました。農業改良普及課は、生産者、いの町役場、JA高知県伊野支所と連携し、授業の前半で高知県でのショウガ栽培や生産の苦労話、JAでの保存や出荷方法を紹介しました。後半では、子どもたちが実物に触れながら草丈と自分の背比べをしたり、親芋と子芋の重さを計測する実習の支援を行いました。

子どもたちからは「自分の背丈より大きい！」「葉からもショウガの匂いがする」「親芋からこんなに増える！」などの声がありました。

農業改良普及課では、今後も出前授業などを通して、地元の農産物のことを知ってもらい愛着を持ってもらえるよう、食育の推進を図っていきます。